

三田尻塩田公園で伝統を体験

中関小の児童が塩作り

郷土の歴史を再認識して

中関小(大坪勇一校長) 4年4組の約30人が5日、三田尻塩田記念産業公園(浜方)で、江戸時代

に中関地域で栄えた塩作りを体験した。当時を再現した入浜式塩田で、砂浜を利用して海水から

塩を取り出す作業に挑んだ。総合学習の一環。10月中に、4年の約110人がクラスごとに訪問する。

山根亮副園長(67)ら職員3人が指導。児童たちは、塩が付いた砂を専

用の鍬(くわ)でかき集める「入鍬(いれぐわ)」や、集めた砂をろ過する沼井(ぬい)に入れ、そこに海水を入れる「はなえ作業」、大きながんぜきに似た「竹子」を使って塩田をかき混ぜる「浜引作業」を実践。「道具が重たい」と声が挙がる中、「がんばれー」とみんなので応援しながら取り組んだ。

末吉悠隼君(10)は「昔の人は海水を生かすなど、工夫して塩を作っていたのがすごいと思った」と話す。

山根さんは「中関は昔は大塩田が広がっていた。身近な塩から郷土の歴史を再認識してもらいたい」としている。



竹子を使って塩田をかき混ぜた

(野原久幸)